

# 『リスク学研究』原稿作成要領

2020年6月26日理事会制定

1. 原稿は和文または英文とし、和文の場合は英文の表題、著者名（ローマ字書き、フルネーム）、英文要旨、Key Words、著者の所属（和文と英文）を第1頁につける。ただし、投稿原稿は査読用に著者名と著者名の所属を記載しないこと。
2. 和文原稿はなるべく当用漢字および現代かなづかいを用い、口語体とする。和文原稿中の外国語はできるだけ和訳し、不必要に外国語を用いることはさける。外国語を用いる場合はすべて半角表示すること。
3. 英文原稿の書式については学会誌の英文論文を参照すること。
4. 英文表題の表記は、単語頭を大文字とする。例) Title of Risk Analysis
5. 図表はレイアウトしたものとは別に、エクセルやパワーポイントなどの元データも提出すること。
6. 表の表題はその上方に、図・写真の表題は下方に、両者の注記、説明等はすべて表題の下方に記載すること。論文各種については、図表の表題は英文とする。
7. キーワードは英文で**3個以上5個以内**とする。ただし、各一個のキーワードは各3語以内とする（例、risk communication）。
8. 本文中の引用は「著者名（西暦年）」とし、同著者で同年の文献がある場合は小文字のアルファベットをつける。英語あるいは日本語の文献においても**括弧（ ）および年数はすべて半角表示**にする。  
引用文献には番号を振らないこと。  
単著の場合：池田(1987), Baumol(1988a), Baumol(1988b)  
二人の連名の場合：池田, 坂下(1986), Gist and Mott(1988)  
三人以上の連名の場合：池田ら(1988), Gist et al.(1989)  
括弧内に表記する場合：・・・といわれる（池田, 1999）。  
括弧内に表記する場合で、複数の文献を並べて引用する場合（セミコロン(;)で区切る）：(池田ら, 1988; Gist et al., 1989)
9. 参考文献は本文の最後に、和英文献を一括でアルファベット順に並べる。掲載誌名の略記は慣例による。番号は振らないこと。和文参考文献は記載例に示すように、英文表記の後に改行して和文表記を記載すること。英文表記においては、文献タイトル、雑誌名、書籍名等に正式な英訳がある場合にはその英訳を記載し、正式な英訳が無い場合には日本語のローマ字表記を記載して、共に末尾に(in Japanese)と記載すること。

## 〈参考文献記載方法〉

著者名（西暦年）文献名，掲載誌名，巻（号），開始頁-終了頁。

注1) 和文内の「,」「.」は全角のこと。

注2) 和文内の半角の中黒「・」は用いない，全角の中黒とする。

注3) 英和文内の英数字は全て半角のこと。文献表題は，冒頭以外の単語は，固有名詞等大文字を使うことが慣例的である場合以外は，小文字で始めること。

注4) 著者氏名内では「&」は用いず「and」とすること。文献の「&」については、その標記に従う。

注5) (西暦年)では「(」の前と「)」の後に半角スペースを入れること。

注6) 書名およびジャーナル名はイタリック、巻数はボールドとする。

注7) 「( )」, 「'」および英文内の「,」についても、半角で統一する。半角の「,」の後には半角スペースを入れること。

〈和文参考文献例〉

Ikeda, T. (1987) Study on Risk Evaluation, *Japanese Journal of Risk Analysis*, **10**(4), 55-60. (in Japanese)

池田太郎 (1987) リスク評価に関する研究, 日本リスク研究学会誌, **10**(4), 55-60.

Ikeda, T., Sakashita, J., and Kitabatake, H. (1988) Study on Risk Perception, *Japanese Journal of Risk Analysis*, **11**(3), 87-92. (in Japanese)

池田太郎, 坂下次郎, 北畠花子 (1988) リスク認知に関する研究, 日本リスク研究学会誌, **11**(3), 87-92.

Ikeda, T. (2005) Risuku Hyoka ni kansuru kenkyu, Ikeda, T.(ed.), *Risuku Ninchi*, \*\*daigaku shuppankai, 83-110. (in Japanese)

池田太郎 (2005) リスク評価に関する研究, 池田太郎 (編) リスク認知, ○○大学出版会, 83-110.

(図の引用などで CC BY などの表示が必要な場合)

Kyoko ONO (2020) Management of Infrastructure from a Perspective of Risk Assessment. *Japanese Journal of Risk Analysis* 29 (3): 187-188. (in Japanese), doi: 10.11447/sraj.29.187, licensed under Creative Commons Attribution 4.0 International (CC BY 4.0 license).

小野恭子 (2020) インフラストラクチャー管理とリスク評価, 日本リスク研究学会誌, 29(3), 187-188.

(ウェブ上で入手した場合)

NRKG (2008) Heisei 19 Nendo Risuku Hyoka Jigyo Seika Hokokusho, Heisei 20 Nen 3 gatsu.

[http://www.jst.go.jp/risk\\_h22.pdf](http://www.jst.go.jp/risk_h22.pdf) (Access : 2012, Jun, 29) (in Japanese)

NRKG (2008) 平成 19 年度リスク評価事業成果報告書. 平成 20 年 3 月,

[http://www.jst.go.jp/risk\\_h22.pdf](http://www.jst.go.jp/risk_h22.pdf) (アクセス日 : 2012 年 6 月 29 日)

〈英文参考文献例〉

Ikeda, T., Sakashita, J., and Kitabatake, H. (2000) Risk perception, *Risk Analysis*, **5**(11), 181-194.

(DOI がある場合)

Ikeda, T., Sakashita, J., and Kitabatake, H. (2000) Risk perception, *Risk Analysis*, **5**(11), 181-194. DOI: 10.1177/0011392114559849

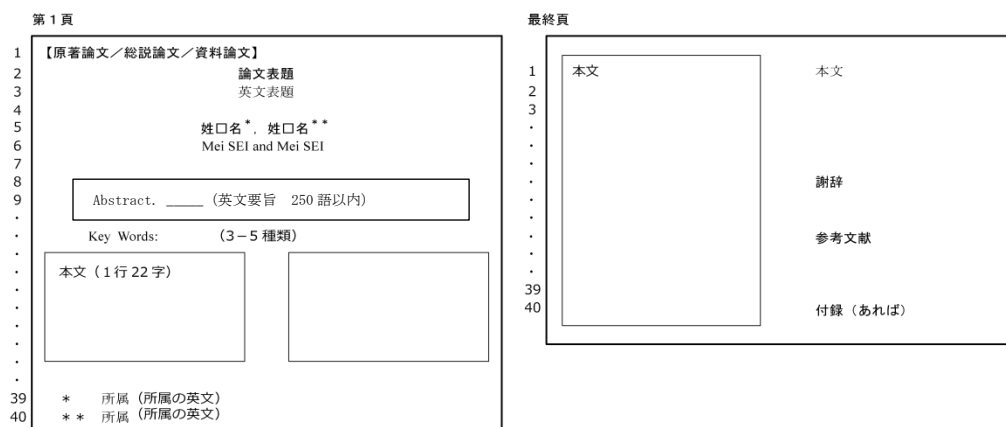
Raiffa, H. (1985) The Art and Science of Negotiation, Cambridge: Harvard Univ.

(図の引用などで CC BY などの表示が必要な場合)

Kyoko ONO (2020) Management of Infrastructure from a Perspective of Risk Assessment. Japanese Journal of Risk Analysis 29 (3): 187-188, doi: 10.11447/sraj.29.187, licensed under Creative Commons Attribution 4.0 International (CC BY 4.0 license).

10. 参考文献に URL を記載する場合、URL の下線は外すこと。参考文献内の URL 記載は、該当する文献情報の最後に「, http//www.....」とつける。また、最後にアクセス日を明記する。DOI がある場合、DOI も併記する。必要に応じて、CC BY などの表示を行う。
11. 参考文献内の、「ー」（全角ダッシュ）は、「\_ \_」（半角スペース＋半角ダッシュ＋半角スペース）で和英文中ともに統一する。
12. 脚注は認めない。
13. 謝辞は、掲載決定後に記入する。
14. 投稿原稿は、以下の要領で A4 用紙に表題、著者名、英文要旨、本文、図表、参考文献等を割付したものを送付すること。  
割付は 2 段組、40 行、各行 22 字詰めとする。  
上端マージン＝25 mm 下端マージン＝35 mm  
右端マージン＝15 mm 左端マージン＝15 mm  
また、図表の割り付けしたものよりさらに約 80% 縮小されることに注意すること。
15. 図および写真にカラーを使用しても良いが、印刷版では白黒印刷となるため、白黒印刷となっても内容の識別が可能であるように留意すること。

### 原稿作成要領



※脚注は認めない。

16. 学会誌の割付例 (サンプルファイルが学会のサイトからダウンロードできま

す)

※新規投稿時の際は投稿方法・投稿規程を熟読の上，ファイルをダウンロードしてそれをもとに作成しご投稿下さい。